

報告月日 令和7年 11月 17日
報告者 兼子 美穂

地域医療支援病院運営委員会および地域協議会 議事録

開催月日	令和7年 11月 6日 (木) 18時20分～18時45分		
開催場所	JCHO 北海道病院 講堂		
委員長	寺本 信先生	事務局	総合支援センター：兼子
委員出席者 (敬称略)	<p>〔外部委員〕</p> <p>寺本 信 (札幌市医師会豊平支部 副支部長) 岡嶋 真紀 (豊平区役所保健センター 札幌市豊平区保健福祉部長) 佐々木 泉顕 (弁護士法人 佐々木総合法律事務所)</p> <p>〔当病院職員〕</p> <p>数井 啓藏 (JCHO 北海道病院 副院長兼総合支援センター長) 長 和俊 (JCHO 北海道病院 副院長兼周産期医療センター長) 長井 桂 (JCHO 北海道病院 副院長兼呼吸器内科診療部長) 山我 健 (JCHO 北海道病院 事務部長) 鈴木 千春 (JCHO 北海道病院 看護部長)</p>		
委員欠席者 (敬称略)	<p>〔外部委員〕</p> <p>佐藤 恵 (腎臓内科めぐみクリニック 院長) 中川 大輔 (札幌薬剤師会 豊平・清田支部長) 向 俊孝 (札幌市民政委員児童委員協議会 理事) 古家 乾 (JCHO 北海道病院 病院長)</p>		
要旨	<p>1. 地域医療支援病院実績報告</p> <p>1) 紹介率・逆紹介率について</p> <p>2025年度上半期の紹介患者数・紹介率は昨年と同ペースである。</p> <p>昨年度は整形外科医師2名の増員があり紹介数が多かった。</p> <p>今年度は主に膠原病内科、消化器内科、泌尿器科紹介患者数が増加した。</p> <p>逆紹介率は前年より増加しており引き続き推進する。</p> <p>2) 救急搬送数</p> <p>2025年度上半期は945件の搬送受け入れ実績。平日日中の救急要請は断らない取り組みを継続していく。</p> <p>3) 共同利用実績</p> <p>2025年度上半期 CT検査の依頼が減少傾向である。</p> <p>4) 手術・分娩・内視鏡実績</p> <p>昨年度は整形外科医師の異動により手術件数が増加したため、年度比較では減少となっている。ダヴィンチは順調に稼働しており、実績を広報誌でアナウンスしていく。</p> <p>分娩件数はやや減少傾向だが、母体搬送は依頼が多く、総合病院での加療が必要な妊婦の受け入れを継続する。内視鏡件数については、消化器内科が積極的に紹介を受け入れており増加に繋がっている。</p>		

- 5) 地域の医療従事者に向けた研修実績
上半期は 10 件の実績となった。
- 6) 地域に向けた研修実績報告
がん関連の研修会を 3 回行った。がん患者向けのイベントも 4 回開催。患者家族が心配なことを話せるように今後も取り組みを継続する。
地域講演会は、医師・メディカルスタッフを講師として年 4 回の開催を目標に取り組んでおり、11 月開催予定あり。
2. 機能評価 中間結果報告
C 判定は無く、S・A・B 判定であった。課題と思われる点については振り返り及び改善を行っていく必要があり、「業務改善委員会」を発足した。今後認定証が届いたら外来ホールへの掲示を行う。
質問) 改善の指摘はどのようなものがあったか?
回答) 医師のインシデント報告が少ないことを指摘された。同意書と説明書の整備も行ったが、カルテ記載の充足について指摘があった。
3. その他
- 1) JCHO 北海道病院健康まつり開催報告
9/13 に開催。昨年度を上回る 600 人以上の参加があり盛況であった。新たにハンドマッサージのブースを設けて参加者に好評だった。
意見) 地域に浸透しているようなので、今後も継続をお願いしたい。
回答) 今年は中の島だけでなく平岸地域にもチラシを配布した。南区方面にも広報を行いたいが、集客が多いと駐車場の問題などもあるので検討していく。
- 2) RRS (院内迅速対応システム) チーム発足について
入院患者の予期せぬ急変事例を予防するために発足。コードブルーは機能しているが、その前段階の「何かおかしい」に対応できるような体制作りやスタッフ教育などに取り組んでいく。
- 3) 連携医療機関との懇話会開催について
来年 2 月連携医療機関との懇話会を計画している。前方・後方の協力医療機関へ案内する予定。

次回開催 令和 8 年 2 月 (書面開催)